

貸借対照表 (普通会計)

大阪市が道路、建物、お金などの「資産」をどれくらい持っている、その「資産」を手に入れるために、どうやってお金のやりくりをしたか(将来世代の負担となる「負債」と過去・現世代がすでに負担した「純資産」)を表にまとめたものです。

左の「資産」と右の「負債+純資産」の額は同額で釣り合い、バランスが取れた状態になるので、「バランスシート」とも呼ばれています。



道路・公営住宅・学校・公園など、行政サービスを提供するための資産(土地・建物など)



行政サービスの提供という役割を終え、売却できる資産

地下鉄事業や阪神高速道路整備に対する出資金など



関西国際空港(株)に対する貸付金など



特定の目的のために蓄えている基金など

23年度末資金及び減債基金(公債償還基金)

市税や貸付金・使用料などで収入されていないもののうち、22年度に発生したもの

平成24年3月31日

【資産の部】	(28兆5,262億円) 8兆5,359億円								
1 公共資産	(27兆 320億円) 6兆9,514億円								
(1) 有形固定資産	(26兆9,091億円) 6兆8,277億円								
<table border="1"> <tr><td>道路</td><td>1兆9,473億円</td></tr> <tr><td>公営住宅</td><td>1兆4,435億円</td></tr> <tr><td>学校</td><td>7,787億円</td></tr> <tr><td>公園</td><td>4,525億円 など</td></tr> </table>	道路	1兆9,473億円	公営住宅	1兆4,435億円	学校	7,787億円	公園	4,525億円 など	
道路	1兆9,473億円								
公営住宅	1兆4,435億円								
学校	7,787億円								
公園	4,525億円 など								
(2) 売却可能資産	(21,229億円) 1,237億円								
2 投資等	(21兆1,237億円) 1兆1,640億円								
(1) 投資及び出資金	(28,327億円) 8,295億円								
(2) 貸付金等	(21,956億円) 2,293億円								
(3) 基金等	(2954億円) 1,052億円								
3 流動資産	(23,705億円) 4,205億円								
(1) 現金預金	(23,633億円) 4,149億円								
<table border="1"> <tr><td>減債基金</td><td>4,136億円</td></tr> <tr><td>年度末資金</td><td>13億円</td></tr> </table>	減債基金	4,136億円	年度末資金	13億円					
減債基金	4,136億円								
年度末資金	13億円								
(2) 未収金	(272億円) 56億円								
資産合計	(28兆5,262億円) 8兆5,359億円								

【ポイント】

8兆円以上の資産を保有していますが、全体の約8割は道路・公営住宅・学校・公園など行政サービスを提供するために必要な資産(有形固定資産)です。
昨年度に比べ、資産総額は97億円増加しました。これは、公共資産が時の経過とともに価値が減少(減価償却)しましたが、主に将来の借入金の返済にそなえ、基金に積み立てたことにより減債基金が増加したためです。

市民1人あたり貸借対照表

貸借対照表を1人あたりに換算すると、右のようになります。
資産・負債・純資産とも昨年度と同じとなっています。

【資産】
(2336万円)
336万円

【負債】
(2135万円)
135万円

【純資産】
(2201万円)
201万円

(住民基本台帳人口(3月31日): 23年度 2,537,920人・24年度 2,540,873人)

(平成23年度末)現在

【負債の部】	(23兆4,358億円) 3兆4,336億円
1 固定負債	(23兆2,450億円) 3兆2,616億円
(1) 地方債	(22兆9,290億円) 2兆9,591億円
(2) 長期未払金	(213億円) 11億円
(3) 退職手当引当金(*)	(22,167億円) 2,088億円
(4) 損失補償等引当金	(2804億円) 750億円
(5) 他会計借入金	(2176億円) 176億円
2 流動負債	(21,908億円) 1,720億円
(1) 翌年度償還予定地方債	(21,516億円) 1,338億円
(2) 未払金	(22億円) 2億円
(3) 翌年度支払予定退職手当(*)	(2263億円) 256億円
(4) 賞与引当金	(2127億円) 124億円
【純資産の部】	(25兆 904億円) 5兆1,023億円
負債・純資産合計	(28兆5,262億円) 8兆5,359億円

25年度以降に支払うもの

25年度以降に返済しなければならない借入金

25年度以降の支払いが確定している未払金

23年度末に全職員が退職した場合に支払う退職金(24年度支払予定分除く)

3セク等に対する損失補償の負担見込額

地下鉄・水道事業会計からの借入金

24年度中に支払うもの

24年度に返済しなければならない借入金

24年度の支払いが確定している未払金

24年度退職予定の職員への退職金

24年度に支給するボーナスのうち23年度(12月~3月)分

すでに負担したお金(資産-負債)

【ポイント】

負債総額は、職員数の削減により将来の退職金の支払いに備え準備しておくべき額(*)が86億円減少したことなどにより、22億円減少しており、将来世代の負担が軽減されています。